

第3回3ダムサブWG（2004.11.8開催）結果報告		2004.11.10 庶務発信
開催日時：	2004年11月8日（月）10：00～12：10	
場 所：	大津プリンスホテル コンベンションホール淡海	
参加者数：	委員22名、河川管理者（指定席）18名、一般傍聴者（マスコミ含む）71名	
<p>1．決定事項：特になし</p> <p>2．審議の概要</p> <p>丹生ダムに係わる検討と意見交換</p> <p>河川管理者より、資料1-1「姉川・高時川の治水について」、資料1-3「第6回姉川・高時川川づくり会議の説明資料について」を用いて説明がなされた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河川管理者には、理屈を立てた説明をお願いしたい。例えば、資料2のP3では地下水への影響や河川環境の喪失を理由に姉川・高時川の放水路掘削案が現実的ではないとされている。そうだとすれば、草津川や野洲川で実施した河川整備をどのように説明するのか。あの整備は間違いだったということか。資料1-1には同じような問題点が多くあるので、修正のうえ再度説明をして頂きたい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>国が反省すべき点もあれば、地域性の違いもある。総合的に検討すべきだということは十分に承知している（河川管理者）。</li> </ul> </li> <li>・国として滋賀県の案を評価したということだが、県との違いはどこにあるのか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>県の案はダム案を含めた代替案について比較検討を行っている。一方、国は地域にとって何が必要かを決めて（できるだけ早く破堤の回避・軽減を図る）その対策を考えた。まずは滋賀県が提案した案の中からダムを除いた案を検討したが、10～20年で破堤を回避する対策としては不十分であると考えたため、ダム案を入れざるを得ないのではないかと考え、その旨を説明させて頂いた（河川管理者）。</li> </ul> </li> <li>・河川管理者は、平地河川化や放水路案は地下水への影響が大きいため、現実的ではないとの結論に達している。高時川の住民の要望が高いのはわかるが、川との関わりの中で、そのような都合の良いことができるのか。地下水に影響があるとしても、河床を下げることで危険水位を下げるができる。河床を下げた場合の地下水への影響について、河川管理者は検討する必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>高時川を平地河川化する場合には、田川も同時に平地河川化しなければ効果はない。また、その際の事業費は1000億を超えるため、今回は環境、地下水という観点で説明したが、総合的な部分も含めて現実的な案ではないと考えている（河川管理者）。</li> </ul> </li> <li>・滋賀県の[ダム+河道改修案]の予算約500億は、利水を前提としたアロケーション（予算配分）だ。今後の利水の状況を考慮した予算を算出し、その上で議論をする必要がある。</li> <li>・ダムWGとしては、今後の検討のために、高時川の既往最大の実績洪水の流量を示してもらいたい。（ダムWGリーダー）</li> </ul> <p>異常渇水対策に係る検討と意見交換</p> <p>河川管理者より、資料1-2「異常渇水対策および琵琶湖環境改善のための琵琶湖水位管理のあり方と治水上の課題について」を用いて説明がなされた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・琵琶湖の水位を1cm回復させるためにどれくらいの費用が必要なのか。税金を使って事業を行う以上、どれくらいの費用が必要なのか、住民への説明する必要がある。</li> <li>・ダムの効果として「魚類の産卵育成期の水位低下抑制」が挙げられているが、魚類産卵にとって大事なのは大雨の後の水位低下抑制である。ダムの効果として挙げられているのは適切ではない。 <ul style="list-style-type: none"> <li>出水直後の急激な水位低下の他に、夏期制限水位へ移行した後の水位低下が重要ではないかと</li> </ul> </li> </ul>		

考えている（河川管理者）

・ダムによる琵琶湖の水位低下抑制効果があるのは事実だが、魚類に対してどの程度のプラス効果があるのか示してもらわなければ、検証できない。

・琵琶湖の水位変化グラフが示されているが、制限水位を撤廃して±0cm前後を目標とした水位管理を行えば、このグラフはどのように変化するのか。単純に平行移動すると考えればいいのか。

制限水位を10cm上げると取水制限の開始時期も遅くなるので、結果としては8~9cm程度の水位上昇効果となるのではないかとと思われる（河川管理者）

・今回の検討結果に、降雨量のデータも同時に示してもらえればよいと思う。

・断水が発生する可能性があるからダムが必要という結論になっているが、将来の産業構造変化や人口予測といった要素まで考慮した上で導き出した結論だとは思えない。また、ダム代替案の複合的な組み合わせ案の検討もできるのではないか。

今回の検討では、現在の水需要を条件に検討を行った（河川管理者）

・丹生ダムのような高所のある、日照時間の短いダムから放流することによって、魚への影響がないか心配している。冷たい水を放流することになるのではないか。

曝気装置等を運用すれば、放流直後から河口に至るまでこれまでとそれほど大きな水温変化は起きないというシミュレーション結果が出ている（河川管理者）

・ダムや利水に関する河川管理者の検討内容は、従来型の延長でしかない。気象情報や中長期の将来予測があるにも関わらず、これらを考慮した検討にはなっていないのが残念だ。21世紀型の検討内容、淀川スタイルの検討内容があっても良いのではないかと考えている（サブダムWGリーダー）

3. 一般傍聴者からの意見聴取：一般傍聴者5名より発言があった。主な意見は以下の通り。

・湧水シミュレーションが提示されているが、9/11のダムSWGで提示されたグラフと違っている。本日整備局が提示した取水量が正しいなら、滋賀県も含めた全てのシミュレーションをこの数字で検討し直さなければならない。

・河川管理者は、高時川の越水対策について「直ちには実施不可」としているが、高時川が直轄河川ではないから「直ちに実施不可」なのか。

前向きに検討していきたい。直轄か補助かというのは事業主体が違うだけであって、基準や考え方に変わりはない（河川管理者）

・滋賀県が対策6案について、6つの評価軸を用いて評価をした結果が示されているが、環境についての評価が抜けている。十分な審議をお願いしたい。

・河川管理者はダムについてさまざまなシミュレーションを行い「ダムによる影響は軽微」としているが、長良川河口堰のように、実際の結果はシミュレーションとは全然違っている。シミュレーションではなく、実際の試行結果によって、判断する必要がある。

・異常湧水が発生するのは何十年かに1回のことだ。これを解消するためにダムをつくるという発想自体を変えてもらいたい。ダムによる補給効果は、容量ではなく、水位が何cm回復するのが重要。

・大川の維持流量カットについて、より突っ込んだ検討が必要。昭和14年の湧水シミュレーションで、大川の維持流量を10m<sup>3</sup>/sカットすれば1億4000万m<sup>3</sup>が得られ、大きな効果が期待できる。維持流量カットによる塩害もクリアできる。ダムWGでは大川維持流量カットについてご検討頂きたい。

・琵琶湖水位0.3~1.5mで発生する浸水被害について、5~10cm刻みの精密な検討を行うべき。浸水農地と被害額のデータがなければ、ダムWGの検討ができないのではないか。

このお知らせは委員の皆様には主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。